

# more trees 被災地支援プロジェクト LIFE311 活動報告書



一般社団法人 more trees

## 「LIFE311」とは

more trees 被災地支援プロジェクト「LIFE311」は、東日本大震災発災後に岩手県住田町が町単独で建設した木造仮設住宅の建設費用を支援し、同住宅に東北の厳しい冬を乗り切るための木質ペレットストーブを寄贈することを目的に、民間からの善意を募るためにスタートしたプロジェクトです。

2011年4月にはWebサイトを開設し、木造仮設住宅建設や木質ペレットストーブを設置することの意義を広く知っていただくとともに、支援目標3億円を掲げ、法人・個人を問わず皆さまよりご寄付を募って参りました。

2016年3月末現在、222,211,865円の支援金が寄せられています。

支援目標の3億円まで残り、約7,780万円です。

## 「LIFE311」のはじまり

日本中の人のみならず、世界中の人々が心を痛めた、2011年3月11日。

more trees は、東日本大震災の発災依頼、これまでの森林保全活動を踏まえ「森の恵み」を活かした復興支援活動を検討していました。

震災復興には、「住まい」が必要であり、「住まい」が「LIFEの再生」のベースと考えました。これまでプレハブが主流であった仮設住宅に「森の恵み」をどう活用すべきかを模索するため、震災直後に被災地を訪れたとき、住田町の取り組みを知りました。

## 住田町

LIFE311で支援している木造仮設住宅がある岩手県住田町は、岩手県の東南部に位置する人口約6,000人の近年過疎化が進む町です。

面積の約90%を森林が占め、林業・木材加工が盛んな町で、山づくりから住宅建築までの一貫したシステムを持ち、「森林・林業日本一の町」をスローガンに掲げています。

隣接する陸前高田市、大船渡市は住田町と共に「気仙地方」と呼ばれ、藩政時代から経済的・文化的に結びつきの深い地域です。



## 木造仮設住宅による被災者支援

住田町は、いつか来る災害に備え、地域に豊富な森林資源を有効活用した「木造仮設住宅」の構想を東日本大震災前から進めていました。そして震災直前の3月上旬には図面や仕様がほぼ完成していました。

地元の木材を使用し、地元の工務店が施工する木造仮設住宅の建設は、地域および林業の活性化にもつながる取組みです。

住田町は、沿岸部の大船渡市、陸前高田市に隣接していますが、津波による直接的な被害を免れました。結びつきの深い地域の被災者のみなさんを早く避難所生活から解放して差し上げたいという思いから、発災からわずか3日後に木造仮設住宅の建設が決定されました。

2011年3月22日に着工した木造仮設住宅は、町内3か所に計93棟建設され、他の地域に比べ異例の速さとなる5月2日~31日にかけて順次入居が開始されました。

## LIFE311の支援先として住田町に決定した理由

- ・津波被災地である岩手県陸前高田市、大船渡市の隣接自治体である
- ・住田町は震災前から既に木造仮設住宅の構想をしていた
- ・住田町は「森林・林業 日本一」を目指す自治体でありFSC（森林認証）も取得していた
- ・町として独自で仮設住宅を作ることを明言しいち早く行動に移した
- ・使用できる町有地の広さから、先ず約100棟が建設できる状態にあった
- ・木造仮設住宅の建設がはじまっているが、資金面での支援を求めている

## 住田町の木造仮設住宅の特徴

住田町の木造仮設住宅は、従来のプレハブ工法の長屋タイプの仮設住宅とは異なり、戸建タイプになります。戸建のため音漏れが少なく、長屋タイプの仮設住宅と比較するとプライバシーが守られ、内部も木造であるために木による調湿効果や癒し効果があり快適に過ごせます。また、木造仮設住宅が役割を終えた際には、木質バイオマスとして活用することが可能です。

住宅内に設置されたペレットストーブの燃料となる「木質ペレット」は、町内にある木材加工場の端材などを有効活用し町内で生産されており、エネルギーの地産地消を実現しています。



<上から見た木造仮設住宅>



<木質ペレット製造設備>

## 経緯

2011年

3月11日 東日本大震災発災

3月13日 住田町 木造仮設住宅 建設決定

3月22日 住田町 木造仮設住宅 着工

4月25日 火石団地 13戸完成

5月2日～ 順次 入居開始

5月6日 本町団地 17戸完成

5月23日 中上団地 63戸完成 (建設戸数 計93戸、避難者 261名)

10月～順次 ペレットストーブ設置



## 復興支援イベント

7月29日、30日、31日 場所：六本木ヒルズアリーナ

「more trees 木を知ろう。森を知ろう。～木造仮設住宅に入ってみよう～」開催



## 交流プログラム

2013年6月、11月 丸の内朝大学 アーバン木こりクラス フィールドワーク訪問  
2014年5月、10月         "                 焚き火マエストロクラス フィールドワーク訪問  
2014年6月29日     プランター・野菜栽培キット配布



<丸の内朝大学>



<プランター配布会>

## その他

2014年9月2日 住田町 新庁舎落成式 参列  
2015年3月22日 イベント「住田町仮設住宅団地の現在 ～つながる支援を考える～」登壇  
2016年2月9日 住田町 町制施行60周年記念式典 参列



<町制施行 60 周年記念式典>

## 入居者の声

2012年12月実施 暮らしのアンケート結果 配布150通、回答107通、回収率71.3%

木造仮設住宅の暮らしに「満足している」、「安心できる」と答えた方が過半数を占め、騒音やプライバシーに関しては、7割以上の方が「隣の生活音が気にならない」等の肯定的な評価を示しました。

これは、木造戸建て住宅であることが大きな要因となっていると考えられます。



<木造仮設住宅の様子>



**2016年6月現在 入居者数**

火石団地 4戸 10名  
本町団地 10戸 23名  
中上団地 20戸 43名 計34戸 76名

**2015年6月入居者数**

火石団地 6戸 18名  
本町団地 10戸 25名  
中上団地 26戸 66名 計42戸 109名

木造仮設住宅に入居されていた方の半数以上が新しい住まいに移られましたが、未だ高齢者を中心とした自力再建の目途が立たない方々がお住まいです。

more trees は、支援目標 3 億円を目指し、引き続き活動を続けてまいります。  
今後共、温かいご支援の程よろしくお願い致します。

以上

LIFE311 more trees被災地プロジェクト収支報告書

自 平成 23 年 4 月 18 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

( 単位 : 円 )

科	目	金	額
【 寄 付 】			
寄	付 額 ※1	222,211,865	
	計		222,211,865
【 活 動 費 】			
普 及 活 動 費 ※2		4,525,531	
事 務 局 運 営 費 ※3		9,831,500	
旅 費 交 通 費		1,615,030	
通 信 ・ 運 搬 費		19,830	
雑 費 ※4		38,305	
	計		16,030,196
	差 引		206,181,669
【 寄 付 ・ 寄 贈 】			
	ベレットストーブ購入・設置費	17,577,000	
	住田町への寄付額(木造仮設住宅建設費)		
	2011年4月18日～2012年3月31日	127,239,769	
	2012年4月1日～2013年3月31日	31,793,218	
	2013年4月1日～2014年3月31日	17,165,670	
	2014年4月1日～2015年3月31日	6,000,376	
	2015年4月1日～2016年3月31日 ※5	6,405,636	
	計		206,181,669
	差 引		0

※1 受取利息含む

※2 イベント開催に係る諸経費等含む

※3 人件費及び消耗品費

※4 振込手数料及び雑費

※5 住田町への支援金(2015年4月1日～2016年3月31日) ¥6,405,636は、  
2016年7月7日に現地に送金いたします。